

## 審査の結果の要旨

氏名 グエン ジェウリン

論文題目 From Informal Transformations of Formal Housing to Morphological Transformation of Urban Fabric: Learning from the Case of Hanoi's Collective Housing Areas Built under Socialism

(集合住宅のインフォーマルな増改築による都市空間の変容に関する研究—ハanoiにおける社会主義時代の集合住宅を事例として)

本論文は、都市の急速な発展の一方で顕在化するアジアやラテンアメリカ、アフリカにおけるインフォーマルな都市の変容のなかで、東南アジア、特にベトナムのハanoiにおける社会主義時代の集合住宅のインフォーマルな増改築に焦点を当て、様々なスケールでの建築的手法による包括的な分析を行い、醜い外観や構造的欠陥、インフラ面での欠点などの否定的な批判を受けている住民主導の自発的な増改築を見直し、空間の変化と人々の行為との関係に対する知見を得ることを目的としている。さらに、多様性、寛容、革新、適応、市民参加といった特徴を持つインフォーマルなアーバニズムの仕組みを検証し、人道的な面で問題を抱える都市環境に対して解決策を提示することを目指すものである。

本論文は、6つの章から構成される。

第1章では、都市のインフォーマルな変容に関する既往研究をまとめ、研究課題を設定し目的を明示している。また、アフォーダンスと都市形態に関する文献から理論的枠組を設定している。

第2章では、インフォーマルな都市の変容に関する歴史を確認している。住宅不足、急激な都市化、脆弱な法制度、1986年の中央集権から市場経済主義への転換によって弱まった政府といった要因によって、違法建築が多く生まれ、さらに1990年代の土地所有権の変化によって戦中、戦後のセルフビルドを引き起こし都市部での自発的な住宅建設を導いたことを説明している。また、家族経営の文化が根強いことと住民の利益を守るインフォーマルな自治体の存在に加えて、規律を求める政府と自由と生活空間を求める住民との関係の中で都市的スケールでのインフォーマルな状況を明らかにしている。

第3章では、内的・外的の2つの手法によって調査分析を行っている。内的な視点からは文化に特有の人々の行為に注目し、21の住戸について実測、写真、図面、インタビューを

行い、住民が隣人との間で議論をせずに増改築を行う方法について明らかにしている。外的な視点からは、6つのエリアにおいて観察、写真、インタビュー、行動調査を行い、住居およびオープンスペースへの住民による増改築について、分類・一般化している。

住戸に対する、場所ごとの増築、隣人と議論を行わない増築の分析から、住戸の位置がインフォーマルな増改築に与える影響と隣人との会話を介さない協力について説明し、また、街区における場所ごとの占拠と周辺環境による占拠の分析を通して、街路のヒエラルキーとオープンスペースの占拠の関係と、住民が合法的に見せかけながら、互いを参照し、既存構造や未利用場所の有効に活用することを指摘している。

第4章では、3章での調査を元に、住戸、コミュニティ、近隣という異なるスケールでの増改築を評価している。住戸のスケールでは新たなタイプの住戸の他に、隣人との交流を生む屋外の私的空間や屋上のテラスを増改築が生み出し、私的空間に対する要求を満たすことを評価する一方で、階による不平等や日照・換気に対する問題を引き起こすことを指摘している。コミュニティスケールでは、オープンスペースの減少を防ぎ、有効活用する3つのパターンについて評価している。近隣スケールでは、一時的な高密度化や連結したオープンスペースの部分的な囲い込みによって商業空間などの交流する場所が生まれることを明らかにしている。

第5章では、第3章と第4章のリサーチを元に、現在政府が行っている再開発に対する対抗案を提案している。インフォーマルな増改築によって生まれた街路の生き生きとした生活や新たな住戸タイプといった良い面は残しつつ、オープンスペースの減少や住戸ごとの不平等といった問題を解決する手法を提示し、住民やコミュニティ、そして変化する要求に対して丁寧に対応することの重要性を主張している。

第6章では、これまでのリサーチで一見複雑に見えるものの、注意深く検証することで、そこに隠された多様な秩序を見出したことを述べるとともに、コミュニティの創造的な力を利用することで、新たな価値や空間の形態を作り、未利用の空間の増改築によって生き生きとした生活を生み、都市構造の形態的変形を起こすことを結論づけている。

以上のように本論文は、近代の計画的な概念だけでは捉えきれない住民の自発的な増改築というインフォーマルな現象に対して、実地調査における多面的な調査と丁寧な分析によって、新しい計画手法を提案しており、世界的な課題である都市のインフォーマルな変容に関する研究にとって大きな意義があると考えられる。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。